

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490200110		
法人名	株式会社 長寿会		
事業所名	グループホーム長寿の郷広瀬	ユニット名	すみれ
所在地	宮城県石巻市広瀬砂三7番1号		
自己評価作成日	令和 2年 8月 28日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 2年 9月 16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、利用者一人ひとりがその人らしい生活が送れるように支援しています。庭には広い散歩道や栗や無花果の木があり、散歩や庭の草取りをされたり、果樹の収穫を行ったり、思い思いの時間を過ごしております。又、一人ひとりの認知症状や身体能力の把握に努め、できることは出来る限り自分でできるように、自立支援に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

石巻市街地から北西部に約10km、広瀬地区の閑静な田園地帯にある。木造平屋建て、バリアフリーのホームは、明るく、温もりと清潔感に溢れている。「一人ひとりの思いを大切に、笑顔溢れる楽しい暮らしの支援」を事業所理念に掲げ、職員全員が入居者の思いや意向把握に向けた問いかけ、傾聴を実践している。近隣住民から新米や新鮮な野菜等の差し入れがあり、運営推進会議やホーム行事等への参加、交流もある。職員が資料を作成し、講師を務める内部研修を毎月計画し、相互研鑽を図っている。協力医による月2回の往診と、週1回来所する訪問看護師との連携があり、家族からの信頼がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム長寿の郷広渕)「ユニット名 すみれ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基に、事業所理念を作成し、各ユニット内、事務所に掲示し共有している。毎朝、朝礼時に唱和している。	「一人ひとりの思いを大切に」を掲げ、日常会話や入浴時等に職員からの問いかけや傾聴を実践している。自己表現が困難な入居者には、反応から判断する「思いの把握」に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方が野菜を持ってきて下さったり、地域のイベントに参加したり、ボランティアの方に来訪して頂いていたが、今は新型コロナの影響で自粛している。	15名の中学生体験学習を受入れ、貼り絵や体操等で楽しく過ごした。町内会への加入があり、正月には神輿や獅子振り等の地域行事の来訪がある。敬老会に、フラダンス等のボランティア来訪があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々と入居者との交流の機会があれば積極的に参加するようにしている。また、年1回、消防署が立ち会う避難訓練に地域の方にも参加して頂いている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、年6回会議を開催していたが、新型コロナにて郵送して行い、アンケートを頂くようにしている。	入居者や家族、住民、地域包括職員も交え、10名以上で開催している。4月からはコロナ禍で、資料を送付し、アンケートを回収している。コロナ予防の徹底や、毎月送付する「長寿のたより」への感謝が届いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者と積極的に情報交換や報告、連絡、相談を行い、常に協力できる関係に努めている。市の主催する研修等に積極的に参加している。	生保受給者の受入れや介護申請手続き等を相談しアドバイスを受けている。包括とは地域の入居希望者やホームの空状況等の意見交換がある。虐待の理解と未然防止研修や地域ケア会議等に職員が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束を行わないケアをしている。身体拘束マニュアルを基に、必要性が生じた場合は家族と相談し、同意を得た上で、最低限の拘束に留める努力をしている。内部研修を実施し、グレーゾーン等勉強している。	運営推進会議に合わせて身体拘束適正化検討会を開催し、拘束に該当するか職員の疑問に対応した内容等を紹介している。職員同士が相互にアドバイスできる環境がある。夜間、自力排泄に立つ足元の不安定な入居者に、背面センサーを使用している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを周知徹底を基に、内部研修にて資料を配布し、虐待について正しい知識を学ぶ機会を持つようにしている。又、意識統一を図る事で防止するように努めている。	外部研修を受講した職員を講師に、内部研修開催の計画がある。介助に苛立つ入居者に、職員が交代し合っの支援がある。介助に身が入らない職員態度に、管理者やケアマネからの声掛け、傾聴を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護支援専門員を中心に、内部研修で学ぶ機会を持ち、個々に合わせた支援体制を構築している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時に契約書及び、重要事項説明書の内容について面談にて説明し、家族の疑問点等についても尋ね、理解、納得をして頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族等から寄せられた意見や要望、苦情は真摯に受け止め、運営推進会議等で報告し、入居者への支援の向上に努め、月に1回長寿のたよりと一緒に報告している。	家族から「太って来たようだ」の声に、毎月の便りに体重報告や写真を同封した。ホーム理念にも共通する家族からの「できることを手伝わせて」の要望に、洗濯物たみや、掃除、茶わん拭きをして頂いている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とのコミュニケーションを図り、また、全体会議の時に意見や提案を聞き、シフトの組み合わせや運営の反映に努めている。	早番や夜勤の専従に応じた、シフトを作成している。嚙下力低下が見られる入居者に刻み食提供の提案や背もたれの角度変更や開閉式フットレスト付き車椅子への更改提案は検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個人個人の努力や実績、勤務状況等を把握し、出来るだけ現場職員が働きやすいように職場環境の整備に努めている。又、業務に有益な資格はシフトを調整したり、補助したりと資格取得への意欲の向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を毎月実施し、講師を職員が努め、出来るだけ職員個人個人が自分で考え互いに学び合える内容になるよう努めている。又、シフト等を調整し、外部研修を受ける機会の確保作りにも努めている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政、地域包括支援センター、相互協会等が主催する会議等には積極的に出席しており、情報の共有や相互交流を図っている。	グループホーム協議会に加入し、ブロック内事業所との交流がある。ケアマネ協会のリハビリ等多職種研修に参加している。協力医が定期的に開催する、高齢者介護施設における感染予防等の研修を受講している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えや要望等には傾聴し、安心できるような声掛けや環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の訴えや要望等には傾聴し、サービス利用開始後も面会時や電話にて状況を報告し、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	来訪、又は電話にて相談があった際は、現状を確認し、他のサービス利用も含め、情報提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりを人生の先輩として、戦後の話しや料理の味付けを教えて頂いたり、支え合う関係構築に努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係性を大切にし、連絡を細目に取り合いながら、本人を支えていけるよう努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の要望や家族からの情報を得ながらできる限り、馴染みのある生活が継続できるように努めている。	家族と美容院に行ったり、好きな寿司等の昼食に出掛けている。コロナ禍で外出はほとんどないが、近所の人や職場の知人等の面会がある。入居者同士でホールや自室でおしゃべりを楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や関係性を把握し、利用者同士が支え合える様、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後であっても、要望があった際は、写真等をお渡ししている。又、他事業所へ移った際も、問い合わせがあれば、支援内容について情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からのコミュニケーションを通して、要望や意向の把握に努めている。聞き取りが困難であっても家族より情報収集し、本人の視点で思いをくみ取れる様に心掛けている。	折り紙を折る際や入浴時に、家で栽培していた花や野菜等の話しを傾聴している。反応の少ない入居者からは、表情や顔きから判断している。居室で縫いぐるみに語りかける内容等を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、入居前のサービス事業所スタッフより聞き取りを行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常日頃より、入居者一人ひとりの心身状態、身体機能等の把握に努めている。又、スタッフ間で情報共有し、少しでも変化があった際にはすぐに気づけるようにしている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状に即した介護計画となるように本人、家族、スタッフからの意見や主治医、訪問看護師からの意見や助言等も反映しながら作成している。	3ヵ月毎にモニタリングを行い、必要に応じたプランの見直しがある。協力医往診や訪看来訪時に職員が同席し、指示等を受けて計画に反映している。家族への説明は、面会時や郵送による電話連絡で行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や支援内容等については個別支援経過記録表に記入している。又、申し送りノートを活用し、小さな気づきであっても職員間で情報を共有し、ケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、その都度、アセスメントを行っている。その時々をニーズを抽出し、柔軟にサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事に積極的に参加し近隣住民が施設見学等で気軽に訪問できるように対応している。又、消防署による防災訓練に参加し、施設の防災訓練にも参加して頂いている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各ユニットで月2回、協力医による訪問診療に職員が立ち会い、状態の報告を行っている。容態の変化時は随時往診して頂いている。又、専門医受診が必要な場合には家族と連絡を調整し、紹介状持参にて職員同行の上、受診支援を行っている	入居者全員が協力医・祐ホームクリニック往診受診である。かかりつけ医の受診支援は、年に数回である。自力で歩行していた入居者に状態低下が見られるとの診断に、歩行介助や入浴を2人介助で支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回訪問看護に来ていただき、協力医療機関と訪問看護職員が常に情報交換や相談をし、連携を図り容態の変化に気づき適切な受診を受けられるよう支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に介護支援専門員が医療機関との情報交換、相談を行い、協力関係の構築に努めている。又、面会し、入居者の治療状況の把握にも努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化看取り指針」を説明している。重度化した場合は、医師、家族と相談し対応方法を決めている。	入居時の説明に加え、重度化した際にも別様で説明し同意を得ている。家族の要望による看取りを行い、訪看の協力により1名の看取り支援を行った。看取りに関する内部研修は計画していないが、新人を含めた職員への研修を考慮願いたい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に備えて、救命救急及び、応急手当等の対応は、内部研修で実施し、訓練も行っている。又、事故発生時マニュアルを作成、掲示し備えている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えて、食料、飲料水、カセットコンロ、毛布等を準備しており、運営推進会議を通して近隣の方々との協力を得られるようにし、近隣住民参加の防災訓練を行っている。	地域の防災訓練への職員参加がある。夜間想定を含む避難訓練を2回実施しているが、地域住民への協力要請、訓練参加はない。水害時の避難所について、マニュアルに具体性が無く不十分であった。	地域住民に理解を得た協力体制作りや火災、水害等発生時の避難体制等を具現化したマニュアル等の見直しをお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣い等、注意しながら対応している。定期的に尊厳やプライバシー保護について内部研修を行い、普段のケアを振り返る機会を設けている。	若い職員を子供扱いにする入居者に、年配職員が交替しての支援がある。呼称はさん付けで、居室入室時はノックと声がけを励行している。同性介助を希望する入居者に、それぞれに応じた支援がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、自己選択、自己決定できるように声掛けを工夫し、食べたいものややりたい事等要望に沿った支援ができるように心がけている。自己決定が困難な場合であっても身振り手振り、表情等から想いをくみ取れるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	活動やレクリエーション等、何をして過ごしたいかを聞き、出来る限り希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を着用したり、化粧などおしゃれができるように支援している。定期的に訪問理容に来ていただき、皆さん楽しみにされている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や地域の郷土料理をメニューに取り入れている。味付けを教えてもらったり、後片付けをお手伝いしてもらっている。	希望のはっやお葛かけ等の味見をしている。入居者、職員が一堂に会して楽しむお好み焼き会を、年数回実施している。メニュー作成、調理は職員が行っているが、栄養士等への相談等はしていない。	県のガイドラインで求められていることもあり、食事メニュー等について、市保健師等への相談、協力を検討されたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を細かく記録し、バランス良く食事が摂れるよう支援している。一人ひとりの嚥下状態を観察し、状態に合った形態で食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や能力をアセスメントし、用具を用意する、見守り、声掛けをする等、個々に応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録表に個々の排泄状況を記録し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。個々の能力に応じて、定時でのトイレ誘導、見守り、声掛けを行い、自立に向け支援している。	布パンとリハパンを着用している入居者が14名で、うち6名に自力でのトイレ排泄への見守り支援がある。夜間はポータブルを使用する1名と、トイレに立つ入居者9名への自立支援がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活記録表に個々の排泄状況を記録し、観察している。状況に応じて、主治医、訪問看護師に相談しながら排便コントロールに努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	出来る限り、本人の要望に合わせて週2~3回、又は、1日おきに入浴できるよう支援している。個々の能力に応じて、洗身、洗髪、更衣の介助を行っている。	入浴を拒否する入居者はなく、汗をかいた等の入浴やシャワー浴要望に応じている。一番風呂や湯量一杯、熱めでの入浴希望に応じた支援がある。足腰に不安のある入居者は、2名介助で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に応じて、午睡を促している。本人が休みたい時に休めるように、居室に戻るまでホールで談笑されたり、自室でテレビを観たり思い思いに過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬日報を作成し、薬の作用や用量についてスタッフ一人ひとりが理解できるように努めている。定期的に薬の取り扱いについて内部研修を行い、知識を深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の意欲に応じて、食器拭きや洗濯畳み等のお手伝いを行っている。又、縫物や草取り、写真貼りを行ったり等、楽しみを持って生活できるように支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って、ウッドデッキで日光浴をしたり、庭を散歩している。新型コロナの為、現在は自粛しているが、家族の協力を得ながら、外泊や買い物へ出かけられるように支援している。	例年であれば初詣や花見、石巻工業港への豪華客船見物等に出掛けているが、コロナ禍のため、ホーム内の庭で散歩を楽しんでいる。ホールから出入りできるウッドデッキは広く、屋根もあり、日光浴をしながら歌を歌ったり、芋煮会等で2ユニット間交流している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の要望に応じて、本人、家族と相談の上で所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方は、好きな時間に電話でやり取りしている。所持していない方であっても要望に応じて、随時電話や手紙でやり取りできるように対応している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、心地よく過ごせるよう、光、温度、湿度の調整を行っている。ホールの壁には毎月、利用者が作成した貼り絵や塗り絵を掲示し、季節感を味わえるように工夫し、廊下には行事での写真を掲示している。	朝は眩しい時もあるホールは、天井が高く明るい。入居者の要望に応じた温度調整や天窓を開けての換気対策を行っている。入居者と一緒に作る毎月のカレンダーも、貼り絵等で季節感がある。ホールにあるソファでは、入居者同士が思い思いに寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、テーブルの他にソファも配置し、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた布団やタンスを持参して頂いたり、家族の写真を飾ったり居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室には洗面台、クローゼット、エアコン等の設備がある。馴染みの裁縫箱を持ち込み、寺の地蔵の帽子や前掛けを手縫いする入居者がいる。お気に入りの陶器を飾ったり、縫いぐるみに話しかけている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力に応じて、手すりを設置したり、補助具を使用し、できることは自分で行って頂いている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490200110		
法人名	株式会社 長寿会		
事業所名	グループホーム長寿の郷広淵	ユニット名	たんぼぼ
所在地	宮城県石巻市広淵砂三7番1号		
自己評価作成日	令和 2年 8月 28日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 2年 9月 16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

石巻市街地より車で10分位の所にあり、周りには水田が広がり、とても自然豊かな環境で家庭的な雰囲気のある共同生活の場です。介護理念の『私達は、一人ひとりの思いを大切に、笑顔あふれる楽しい暮らしを支援いたします』をモットーに、楽しく生き生きと「自分らしい」生活は何かをよく考え、自立生活の持続を支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

石巻市街地から北西部に約10km、広淵地区の閑静な田園地帯にある。木造平屋建て、バリアフリーのホームは、明るく、温もりと清潔感に溢れている。「一人ひとりの思いを大切に、笑顔溢れる楽しい暮らしの支援」を事業所理念に掲げ、職員全員が入居者の思いや意向把握に向けた問いかけ、傾聴を実践している。近隣住民から新米や新鮮な野菜等の差し入れがあり、運営推進会議やホーム行事等への参加、交流もある。職員が資料を作成し、講師を務める内部研修を毎月計画し、相互研鑽を図っている。協力医による月2回の往診と、週1回来所する訪問看護師との連携があり、家族からの信頼がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム長寿の郷広渕)「ユニット名 たんぽぽ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基に、事業所理念を作成し、各ユニット内、事務所に掲示し共有している。毎朝、朝礼時に唱和している。	「一人ひとりの思いを大切に」を掲げ、日常会話や入浴時等に職員からの問いかけや傾聴を実践している。自己表現が困難な入居者には、反応から判断する「思いの把握」に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方が野菜を持ってきて下さったり、地域のイベントに参加したり、ボランティアの方に来訪して頂いていたが、今は新型コロナの影響で自粛している。	15名の中学生体験学習を受入れ、貼り絵や体操等で楽しく過ごした。町内会への加入があり、正月には神輿や獅子振り等の地域行事の来訪がある。敬老会に、フラダンス等のボランティア来訪があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が入居者との交流の機会があれば積極的に参加するようにしている。また、年1回、消防署が立ち会う避難訓練に地域の方にも参加して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、年6回会議を開催していたが、新型コロナにて郵送している、アンケートを頂くようにしている。	入居者や家族、住民、地域包括職員も交え、10名以上で開催している。4月からはコロナ禍で、資料を送付し、アンケートを回収している。コロナ予防の徹底や、毎月送付する「長寿のたより」への感謝が届いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者と積極的に情報交換や報告、連絡、相談を行い、常に協力できる関係に努めている。市の主催する研修等に積極的に参加している。	生保受給者の受入れや介護申請手続き等を相談しアドバイスを受けている。包括とは地域の入居希望者やホームの空状況等の意見交換がある。虐待の理解と未然防止研修や地域ケア会議等に職員が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束を行わないケアをしている。身体拘束マニュアルを基に、必要性が生じた場合は家族と相談し、同意を得た上で、最低限の拘束に留める努力をしている。内部研修を実施し、グレーゾーン等勉強している。	運営推進会議に合わせて身体拘束適正化検討会を開催し、拘束に該当するか職員の疑問に対応した内容等を紹介している。職員同士が相互にアドバイスできる環境がある。夜間、自力排泄に立つ足元の不安定な入居者に、背面センサーを使用している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを周知徹底を基に、内部研修にて資料を配布し、虐待について正しい知識を学ぶ機会を持つようにしている。又、意識統一を図る事で防止するように努めている。	外部研修を受講した職員を講師に、内部研修開催の計画がある。介助に苛立つ入居者に、職員が交代し合っの支援がある。介助に身が入らない職員態度に、管理者やケアマネからの声掛け、傾聴を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護支援専門員を中心に、内部研修で学ぶ機会を持ち、個々に合わせた支援体制を構築している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時に契約書及び、重要事項説明書の内容について面談にて説明し、家族の疑問点等についても尋ね、理解、納得をして頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族等から寄せられた意見や要望、苦情は真摯に受け止め、運営推進会議等で報告し、入居者への支援の向上に努め、月に1回長寿のたよりと一緒に報告している。	家族から「太って来たようだ」の声に、毎月の便りに体重報告や写真を同封した。ホーム理念にも共通する家族からの「できることを手伝わせて」の要望に、洗濯物たみや、掃除、茶わん拭きをして頂いている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とのコミュニケーションを図り、また、全体会議の時に意見や提案を聞き、シフトの組み合わせや運営の反映に努めている。	早番や夜勤の専従に応じた、シフトを作成している。嚙下力低下が見られる入居者に刻み食提供の提案や背もたれの角度変更や開閉式フットレスト付き車椅子への更改提案は検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個人個人の努力や実績、勤務状況等を把握し、出来るだけ現場職員が働きやすいように職場環境の整備に努めている。又、業務に有益な資格はシフトを調整したり、補助したりと資格取得への意欲の向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を毎月実施し、講師を職員が努め、出来るだけ職員個人個人が自分で考え互いに学び合える内容になるよう努めている。又、シフト等を調整し、外部研修を受ける機会の確保作りにも努めている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政、地域包括支援センター、相互協会等が主催する会議等には積極的に出席しており、情報の共有や相互交流を図っている。	グループホーム協議会に加入し、ブロック内事業所との交流がある。ケアマネ協会のリハビリ等多職種研修に参加している。協力医が定期的に開催する、高齢者介護施設における感染予防等の研修を受講している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えや要望等には傾聴し、安心できるような声掛けや環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の訴えや要望等には傾聴し、サービス利用開始後も面会時や電話にて状況を報告し、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	来訪、又は電話にて相談があった際は、現状を確認し、他のサービス利用も含め、情報提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりを人生の先輩として、戦後の話しや料理の味付けを教えて頂いたり、支え合う関係構築に努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係性を大切にし、連絡を細目に取り合いながら、本人を支えていけるよう努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の要望や家族からの情報を得ながらできる限り、馴染みのある生活が継続できるように努めている。	家族と美容院に行ったり、好きな寿司等の昼食に出掛けている。コロナ禍で外出はほとんどないが、近所の人や職場の知人等の面会がある。入居者同士でホールや自室でおしゃべりを楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や関係性を把握し、利用者同士が支え合える様、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後であっても、要望があった際は、写真等をお渡ししている。又、他事業所へ移った際も、問い合わせがあれば、支援内容について情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からのコミュニケーションを通して、要望や意向の把握に努めている。聞き取りが困難であっても家族より情報収集し、本人の視点で思いをくみ取れる様に心掛けている。	折り紙を折る際や入浴時に、家で栽培していた花や野菜等の話しを傾聴している。反応の少ない入居者からは、表情や顔きから判断している。居室で縫いぐるみに語りかける内容等を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、入居前のサービス事業所スタッフより聞き取りを行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常日頃より、入居者一人ひとりの心身状態、身体機能等の把握に努めている。又、スタッフ間で情報共有し、少しでも変化があった際にはすぐに気づけるようにしている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状に即した介護計画となるように本人、家族、スタッフからの意見や主治医、訪問看護師からの意見や助言等も反映しながら作成している。	3ヵ月毎にモニタリングを行い、必要に応じたプランの見直しがある。協力医往診や訪看来訪時に職員が同席し、指示等を受けて計画に反映している。家族への説明は、面会時や郵送による電話連絡で行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や支援内容等については個別支援経過記録表に記入している。又、申し送りノートを活用し、小さな気づきであっても職員間で情報を共有し、ケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、その都度、アセスメントを行っている。その時々をニーズを抽出し、柔軟にサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事に積極的に参加し近隣住民が施設見学等で気軽に訪問できるように対応している。又、消防署による防災訓練に参加し、施設の防災訓練にも参加して頂いている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各ユニットで月2回、協力医による訪問診療に職員が立ち会い、状態の報告を行っている。容態の変化時は随時往診して頂いている。又、専門医受診が必要な場合には家族と連絡を調整し、紹介状持参にて職員同行の上、受診支援を行っている	入居者全員が協力医・祐ホームクリニック往診受診である。かかりつけ医の受診支援は、年に数回である。自力で歩行していた入居者に状態低下が見られるとの診断に、歩行介助や入浴を2人介助で支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回訪問看護に来ていただき、協力医療機関と訪問看護職員が常に情報交換や相談をし、連携を図り容態の変化に気づき適切な受診を受けられるよう支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に介護支援専門員が医療機関との情報交換、相談を行い、協力関係の構築に努めている。又、面会し、入居者の治療状況の把握にも努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化看取り指針」を説明している。重度化した場合は、医師、家族と相談し対応方法を決めている。	入居時の説明に加え、重度化した際にも別様で説明し同意を得ている。家族の要望による看取りを行い、訪看の協力により1名の看取り支援を行った。看取りに関する内部研修は計画していないが、新人を含めた職員への研修を考慮願いたい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に備えて、救命救急及び、応急手当等の対応は、内部研修で実施し、訓練も行っている。又、事故発生時マニュアルを作成、掲示し備えている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えて、食料、飲料水、カセットコンロ、毛布等を準備しており、運営推進会議を通して近隣の方々との協力を得られるようにし、近隣住民参加の防災訓練を行っている。	地域の防災訓練への職員参加がある。夜間想定を含む避難訓練を2回実施しているが、地域住民への協力要請、訓練参加はない。水害時の避難所について、マニュアルに具体性が無く不十分であった。	地域住民に理解を得た協力体制作りや火災、水害等発生時の避難体制等を具現化したマニュアル等の見直しをお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣い等、注意しながら対応している。定期的に尊厳やプライバシー保護について内部研修を行い、普段のケアを振り返る機会を設けている。	若い職員を子供扱いにする入居者に、年配職員が交替しての支援がある。呼称はさん付けで、居室入室時はノックと声がけを励行している。同性介助を希望する入居者に、それぞれに応じた支援がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、自己選択、自己決定できるように声掛けを工夫し、食べたいものややりたい事等要望に沿った支援ができるように心がけている。自己決定が困難な場合であっても身振り手振り、表情等から想いをくみ取れるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	活動やレクリエーション等、何をして過ごしたいかを聞き、出来る限り希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を着用したり、化粧などおしゃれができるように支援している。定期的に訪問理容に来ていただき、皆さん楽しみにされている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や地域の郷土料理をメニューに取り入れている。味付けを教えてもらったり、後片付けをお手伝いしてもらっている。	希望のはっやお葛かけ等の味見をしている。入居者、職員が一堂に会して楽しむお好み焼き会を、年数回実施している。メニュー作成、調理は職員が行っているが、栄養士等への相談等はしてない。	県のガイドラインで求められていることもあり、食事メニュー等について、市保健師等への相談、協力を検討されたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を細かく記録し、バランス良く食事が摂れるよう支援している。一人ひとりの嚥下状態を観察し、状態に合った形態で食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や能力をアセスメントし、個々に応じた支援をしている。又、状態に応じて定期的に歯科に往診して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人個人のパターンや能力、習慣を把握し、食事前の声掛けや、急に立ち上がった等のサインを把握し、トイレ誘導を行っている。夜間はセンサーマット、声掛け等にてトイレ誘導を行っている。	布パンとリハパンを着用している入居者が14名で、うち6名に自力でのトイレ排泄への見守り支援がある。夜間はポータブルを使用する1名と、トイレに立つ入居者9名への自立支援がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活記録表に排泄状況を記録し、確認を行っている。一人ひとりの排泄状況を把握し、訪問看護師、主治医に相談し連携を図り、排便のコントロールに努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	本人の希望や身体状態、精神状態に合わせて週2~3回の入浴やシャワー浴を行い、個人の能力に応じて、残存能力を活用した支援を行っている。	入浴を拒否する入居者はなく、汗をかいた等の入浴やシャワー浴要望に応じている。一番風呂や湯量一杯、熱めでの入浴希望に応じた支援がある。足腰に不安のある入居者は、2名介助で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は本人の意向に沿った支援を行い、くつろいで頂いている。夜間は不快な音や光等を避け、快適な湿度、温度を保ち、本人が休みたいときに安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬日報を作成、運用し、薬の目的や用量について周知徹底できるように努めている。又、薬の変化のある時は連絡ノートを活用し、申し送りの時に報告の徹底に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力を維持できるよう、食器拭き、洗濯物量みを楽しみながら行って頂けるよう支援している。又、体調に合わせて草取り、モップ掛け等もできるよう支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	新型コロナの影響にて買い物等の外出は自粛しているが、敷地内でのお花見を行ったり、散歩をしたり、ウッドデッキに出て日光浴を行ったりしている。	例年であれば初詣や花見、石巻工業港への豪華客船見物等に出掛けているが、コロナ禍のため、ホーム内の庭で散歩を楽しんでいる。ホールから出入りできるウッドデッキは広く、屋根もあり、日光浴をしながら歌を歌ったり、芋煮会等で2ユニット間交流している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方には、本人、家族と相談して所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族と随時電話ができるよう対応している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に清潔を保ち、不快感や光、温度、湿度には細心の注意を払い、調整している。又、ホールの壁には月変わりに季節やイベントに合わせて貼り絵を飾ったりして、季節感や生活感を感じられるよう支援している。	朝は眩しい時もあるホールは、天井が高く明るい。入居者の要望に応じた温度調整や天窓を開けての換気対策を行っている。入居者と一緒に作る毎月のカレンダーも、貼り絵等で季節感がある。ホールにあるソファでは、入居者同士が思い思いに寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール等には少人数、又は、一人で過ごせるよう、椅子やソファを配置し気兼ねなく思い思いに過ごせるよう支援している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、テレビ等を持ち込んで居心地良く過ごせる居室になるよう努めている。	居室には洗面台、クローゼット、エアコン等の設備がある。馴染みの裁縫箱を持ち込み、寺の地藏の帽子や前掛けを手縫いする入居者がいる。お気に入りの陶器を飾ったり、縫いぐるみに話しかけている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの現能力を把握し、手すりの設置、補助具の使用、明るさの調整等を行い、できることは実施している。		